

# BY BLUE

2010  
VOL  
26

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

- BY探訪 ほとりへ…P1  
「桂川」
- 食材を活かす水の妙…P2  
「三輪そうめん」
- 水とともに…P3  
「琵琶湖のヨシ」
- 行こうよ 水のミュージアム…P10  
「水道記念館」



## 発行終了のお知らせ

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 機関誌「BY BLUE」は、平成10年1月の創刊以来、琵琶湖・淀川流域並びに水需給区域の水環境に関する情報、トピックスやBYQの活動状況について、流域にお住まいの皆様にはわかりやすくご紹介することを目的に年2回の発行を続けて参りましたが、発行の目的も一定達せられたことから、本号(26号)をもって発行を終了することとなりました。ご愛読いただいた皆様、執筆にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

突然のお知らせで、ご愛読いただきました方々にはご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。なお、本誌のバックナンバーについては、当機構のホームページに掲載しています。



### (財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計12社(平成22年3月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)環境総合テクノス、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、(株)修成建設コンサルタント、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設計シビル、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社



財団法人 **琵琶湖・淀川水質保全機構** 〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号大阪マーチャントイズ・マート(OMM)ビル13階  
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036  
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization ホームページアドレス <http://www.byq.or.jp/>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。



Vol.2 桂川

オオサンショウウオも息する清流、桂川の上流域はアユやウグイなどの釣り場として知られています。水源の丹波山地から京都市の京北地域、亀岡盆地へと流れ、山との調和が美しい観光名所の保津峡、嵐山へと注ぎます。流路が100km以上もある桂川は、地域によって「大堰川」「保津川」「梅津川」などの呼称でも親しまれています。渡月橋を過ぎると、流れは南へと大きく向きを変え、大山崎町で宇治川、木津川と合流して淀川になります。



【桂川サイクリングロード】

嵐山東公園～八幡市木津町  
桂川・木津川沿いに約45km 続く自転車と歩行者専用道路。にぎわいの嵐山と対照的な静かな自然環境、下流域も散策の魅力いっぱい。

山間、中州は自然の宝庫  
耳をすませば野鳥のさえずり



【保津峡】亀岡市～京都市右京区嵐山  
夏目漱石の「虞美人草」をはじめ数々の文学作品に登場する景勝地。トロッコ列車、保津川下りに多くの観光客が集まる。



食材を話す  
水の妙

三輪そうめん

三輪の風土と水に育まれ  
受け継がれる手延べ製法



水と地味、気候がそろそろめん作りの適地

三輪山から吹き下ろす風が冷たくなってくると、奈良県三輪地方では毎年手延べそうめん作りが始まります。三輪山麓から湧き出て一帯を潤す水は、少量のラジウムやゲルマニウムなど豊富なミネラルを含んでおり、かつては不老長寿の霊水と信じられていました。また三輪山の南から流れ出る巻向川と初瀬川に囲まれた山麓一帯は、瑞垣郷と呼ばれる地味豊かな農

作地帯で最上質の小麦が採れました。

奈良時代の人々は、この小麦を巻向川の流れを利用した水車で製粉して小麦粉にし、縄のような細いひも状に形づくり、氏神である大神神社に奉納しました。これがそうめん作りの始まりといわれています。江戸時代、三輪地方は門前町としてにぎわい、訪れた多くの人々によって、その製法が各地に伝わりました。良質な水と小麦粉、そして、そうめんを理想的に干し

良質の自然の原料を  
伝統の技術で仕上げる

上げる寒冷な冬の気候と条件がそろった三輪地方は昔からそうめん作りに適した地だったのです。そうめんの原料は、小麦粉、塩、水、そして油。手延べそうめん作りは、塩と水を配合することから始まります。塩水と小麦粉をこね合わせ、大きなのし餅状のばした生地を、渦巻状の切れ目を入れます。帯状になった生地を太いひも状にのばしながら、乾燥を防ぐため表面に綿実油を塗布。その後熟成を重ねながら2日かけて1mm以下の細さにまでのばしていきます。一つ一つの工程の中に三輪独自の伝統技法が受け継がれています。

原料として、またかつては小麦を挽く水力として、そうめん作りに必要不可欠な水。三輪の風土に育まれた水の恩恵があったからこそ生まれた手延べそうめんは時代が変っても脈々と受け継がれています。

(撮影協力)株式会社三輪そうめん山本



11～3月の寒冷期、早朝から始められるそうめん作り。各工程で熟成を重ねながら生地がゆっくりとのばされていく。①塩と水を配合する「なかだて」。塩の量はその日と翌日の温度・湿度によって決まる②細くした麺を二本の管に八の字にかけていく「かけば」を行い、数時間熟成させる③「こびき」で約50cmまでのばし、翌日までじっくり熟成させる④機にかけ、そうめんの細さまで引きのばして干す「かどばし」。以前は天日干しだったが近年ではほとんど室内で乾かされる

# 守り、育て、活用して 琵琶湖のヨシ原を残す。

琵琶湖の風景に欠かせないヨシ原。

かつてヨシは人々の暮らしに身近な存在でした。

戦後、ヨシの需要が激減し、ヨシ原が荒れていくなか、

琵琶湖環境に寄与するヨシの機能が見直されてきました。



西の湖のヨシ原

ヨシはイネ科ヨシ属の多年生草本で、日本各地の湖沼、河川など水辺に生え大群落を形成します。ヨシが茂る風景は、かつて日本の至るところで見られ、古くから人々に愛されてきました。

ヨシ原が広がる近江八幡市円山町の西の湖水郷地帯に、江戸時代からヨシの卸業を営む西川嘉右衛門商店があります。「以前は円山町の農家のほとんどが農閑期にヨシ生産を生業にしていた。ヨシはお米よりも高値で取引されていたんですよ」と語る17代目西川嘉廣さん。ヨシはよしずや屋根、家具などに、また旺盛な生命力と浄化作用から破魔矢など神事に用いられていました。人々にとって、ヨシは身近な存在であり、暮らしに深く関わっていたのです。



西川嘉廣さんが2001年に土蔵を改修してヨシ博物館を開館。「ヨシの文化」をテーマに文献資料や物品を展示している（撮影時は近江八幡市立資料館にて展示中）

## ヨシの多面的機能が 琵琶湖の環境を守る

春に芽吹き、夏までに4m近くも伸びるヨシを、冬に刈り取り、早春にヨシ焼きを行う。このサイクルが繰り返されることでヨシ原は良い状態に保たれてきました。しかし、戦中・戦後の食糧増産のための埋め立てや干拓、開発によってヨシ原は激減。また生活スタイルの洋式化や安価な中国産ヨシが輸入されるようになったこともあり、ヨシ業も急速に衰退していきました。ヨシ原の放置が目立つようになると、近年ヨシが持つ機能的な重要性が注目されるようになりました。

ヨシには、水中の窒素やリンを養分として吸収する作用、水中茎に付着する微生物による有機物の分解作用などの水質浄化機能があります。またヨシの密生する場所は鳥類や魚類など多様な生物の産卵場所や隠れ場所になり、生態系保全の面でも重要です。そのほか湖岸の浸食防止など様々な機能が認識されるようになり、ヨシ群落の保全や面積拡大に向けた動きが活発になってきています。

## ヨシ群落の保全のために 「活用する」がキーワード

大津市では、1990年から市主催の市民ヨシ刈りが始まり、現在では地元自治会の他、家族、小中学校、企業単位で応募されたたくさんの方がボランティアとして参加しています。このヨシ刈りに毎年参加する市民団体「ヨシネットワーク」では、ヨシ工作教室やヨシ笛の演奏会を行い、参加された人たちに楽しみながらヨシについて考えるきっかけづくりをしています。

「滋賀に住む人は、多かれ少なかれ琵琶湖に特別な想いを抱いています。少しでも子どもたちがヨシ、琵琶湖の環境に関心を持つてくれれば」と事務局長の鳥飼和夫さんは話します。

滋賀県では1992年に「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に



寒空のなか、子どもから大人までボランティアが集まり手作業で行われるヨシ刈り（撮影場所は西の湖）

関する条例」を制定。ヨシを「守り、育て、活用する」を3本柱にする中で、「一番課題となっているのが「活用する」。ヨシの大量需要につながる新規活用法が必要とされ企業や大学等でも研究が進められています。

安土町商工会「よしきりの会」では、「ヨシ原が広がる西の湖の景観を守りながら、町おこし」を目指し、水郷地帯に古くから伝わるヨシちまきをはじめ、刈り取ったヨシの若葉を粉末にして練り込んだ特産品を次々に開発。イベントへの出品や安土町内で販売もされ、消費者の反応は好評です。

琵琶湖のヨシ原を後世に受け継いでいくために、行政、事業者、県民、それぞれの立場から、ヨシ保全へのアプローチが進められています。



「よしきりの会」が開発したヨシジェラート、ヨシ茶など様々なヨシ製品。ヨシにはビタミンCが豊富

平成22年2月6日(土)、「BYQネットワークの集い2010」を大阪市立自然史博物館1階講堂において下記のプログラムで開催しました。WAQU<sup>2</sup>調査隊やBYスタンプラリー協賛団体の方々など、約90名の参加がありました。



### ◆事務局から今後の事業展開について◆

西村事務局長の開会挨拶の後、久納研究所次長から「BYQの今後の事業展開について」と題して、BYQ発足から15年を経て琵琶湖・淀川流域の水質の課題が変わってきたことから、平成22年度からのBYQの事業展開も変えていくことを説明しました。

自主研究は、「遊び泳げる河川」を目指しての課題を中心に進めることや、かわら版の発行の効率化を図ること、河川愛護助成は一時中断することについても説明を行いました。



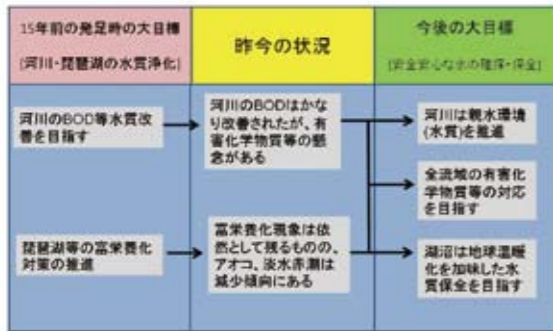
久納次長より事務局からの今後の事業展開について



西村事務局長の開会挨拶

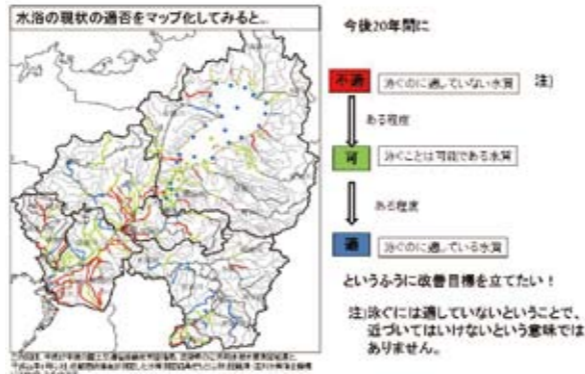
### BYQの今後の事業展開について (当日資料抜粋)

#### BYQの発足時から今後にかけての目標推移イメージ

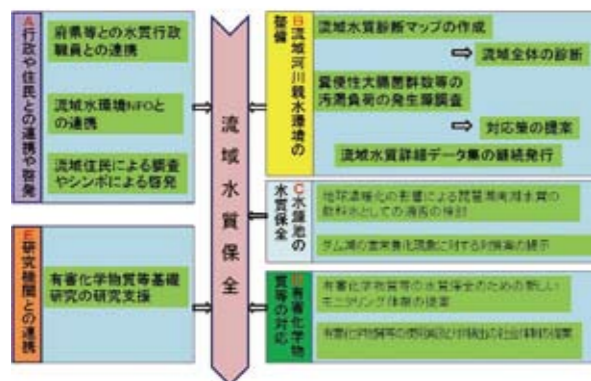


注)本イメージ図は、大きな流れを示したものであり小さな流れは割愛している

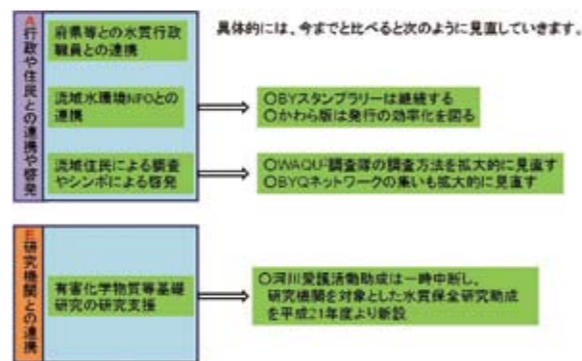
#### 今後20年間の目標をいかに設定するか!(検討案)



#### 平成22年度からのBYQの自主事業フレーム (検討案)



#### 平成22年度からのBYQの自主事業フレーム (検討案)



### BYQ ネットワークの集い 2010 プログラム

時間	内容
13:00~13:05	開会あいさつ 事務局長 西村 安裕
13:05~13:40	事務局からの報告 研究所次長 久納 誠 ◆BYQの今後の事業展開について ◆今後のWAQU <sup>2</sup> 調査隊の活動について (質疑・意見交換等)
13:40~13:55	キャッチフレーズ最優秀、優秀賞入選者表彰式 BYスタンプラリー表彰式
13:55~14:05	休憩
14:05~14:55	【講演】講演者:自然史博物館学芸員(理学博士) 中条 武司氏 「市民と行う自然環境調査:自然史博物館での淀川・大和川プロジェクトY」 ◆自然史博物館での淀川および大和川での自然環境調査「プロジェクトY」について ◆淀川・大和川での水質や生き物調査の概要 ◆市民調査の意義
14:55~15:00	閉会・閉会あいさつ 事務局長 西村 安裕

◆講演：大阪市立自然史博物館 中条学芸員◆

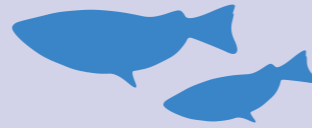
「市民と行う自然環境調査：自然史博物館での淀川・大和川プロジェクトY」についてご講演をいただきました。博物館の展示紹介、大和川プロジェクトYでは、生物の生息分布や水質、特に人間活動と塩化物イオンの関係、淀川プロジェクトYを今年8月に報告することなど貴重なお話をいただきました。



講演風景



講演者：中条学芸員



続いて「今後のWAQU<sup>2</sup>調査隊の活動について」説明を行いました。まず、従来の水質調査項目(パックテスト)5項目のうち亜硝酸態窒素を取りやめ、4項目(COD、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、リン酸態リン)とし、にごりと臭いの調査を追加することを説明しました。また、目視による調査項目として、川原の状態、川底の状態や水深などの項目や、将来的に生物調査を加えることを説明しました。

今後の WAQU<sup>2</sup> 調査隊について (当日資料抜粋)



これらの説明に対し、会場から「追加された項目は理解できるが、統一された基準が必要ではないか」、「同じ河川でも少し場所が異なると大きく状況が異なるのではないか」、「泡が出ているところは、水質はどうなのか」、「調査場所には川原がないが、どう調査するのか」、などの質問が出されました。

◆キャッチフレーズ表彰式◆

今後、新たな事業展開を行うにあたり、水質保全のテーマとして「遊んだり、泳いだりするのに適した川や湖にする」という目標を流域のみなさまと共有しながら、琵琶湖・淀川流域の水質保全活動を協働して展開できるような、『だれもが理解し、親しみのもてるキャッチフレーズ』を募集したところ141通のご応募をいただきました。

その中から「飲める水 遊べる水辺 次世代に」が最優秀賞に、優秀賞3作品が選考委員会にて選定されました。表彰式では、西村事務局長から出席いただいた福岡さん、泉さん、牧野さんに賞状および副賞の授与を行いました。



BYQキャッチフレーズ入選作品

- 最優秀賞  
「飲める水 遊べる水辺 次世代に」  
福岡 亜紀さん 和歌山県和歌山市
- 優秀賞  
「いのちの水、おいしく飲んで、きれいに使って、たのしく遊ぼう!」  
泉 伸司さん 大阪府豊中市
- 優秀賞  
「川や湖、みんなの生命(いのち)。きれいな水で未来へつなごう!!」  
桑村 善彦さん 大阪府交野市
- 優秀賞  
「水辺でキラリ! はじける笑顔に はしゃぐ声」  
牧野 千春さん 兵庫県尼崎市

◆BYスタンプラリー表彰式◆

今年度BYスタンプラリーの全てのチャレンジ(初級、中級、上級、チャレンジ4~7)を達成された方々に、西村事務局長から賞状および副賞の授与を行いました。今回表彰されたご家族は、今年度2回、全てのチャレンジを達成されています。



# 水のミュージアム

## 第2回 「水道記念館」

柴島浄水場に隣接し、かつて大阪市水道の主力ポンプ場として活躍した『旧第1配水ポンプ場』を保存活用して1995年に開館した水道記念館。赤レンガと御影石のノスタルジックな建物は国の有形文化財として指定登録されています。



### 琵琶湖・淀川水系の自然と魚たち

琵琶湖・淀川水系に生息する107種、約4,500尾の淡水魚を展示。水槽が並ぶフロアは、さながらミニ水族館のよう。水のトンネルではまるで淀川に潜ったような気分が味わえます。

天然記念物のイタセンバラやアユモドキなど、他の水族館ではなかなか見ることができない魚もいますよ。



イタセンバラ

季節ごとにイベントも開催しています。お気軽に足を運んでください

水道記念館 横山達也さん

### 水道の歴史とくらし

浄水場の仕組みや水道管の模型、江戸時代を模したジオラマなどで大阪市の水道の歴史や暮らしとのかかわりについてわかりやすく学べます。



上：江戸時代のくらしと水。左：地下の水の道

### 淡水魚飼育研究棟

水族館の“裏側”も開放しています。こちらにも気軽に立ち寄ってくださいね！



水道記念館の“バックヤード”。水道記念館全体では、琵琶湖・淀川水系の淡水魚や貝類、水草など197種、13,499個体（平成22年3月現在）を飼育研究しています。来館者の見学も可能です。

ポンプの操作をしてみたり、「オゾンレンジャー」や「活性炭感星たんけん」など、体験できる展示物がお子さんに人気です。



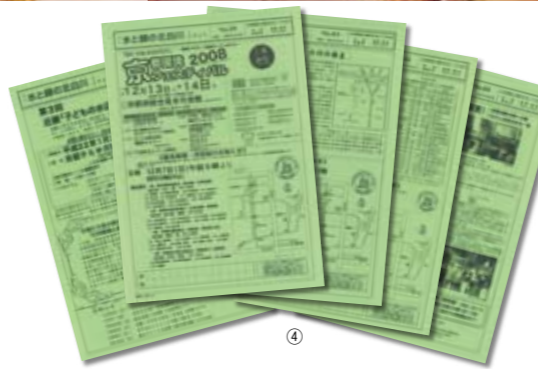
水道管水圧体験

#### 【ご案内】

- 開館時間：9:30～16:30（入館は16:00まで）
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料：無料
- 住所：〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-3-1
- 電話：06-6324-3191 ●FAX：06-6324-3114
- 交通：地下鉄「西中島南方駅」より徒歩約15分／阪急「南方駅」より徒歩約15分／阪急「崇禅寺駅」より徒歩約20分／阪急「柴島駅」より徒歩約15分／市バス「長柄橋北詰」下車徒歩約10分、「西中島1丁目」下車徒歩約7分／無料駐車場有（25台）



- ①「身近な川の生物調査」参加の子どもたち
- ②学区民あけて「琵琶湖疏水第一分線」の一斉清掃
- ③白川上流で生きもの調べ
- ④会報「水と緑の北白川」日より



# 白川源流と疏水を美しくする会

豊かな自然を次代につなぐ

現場主義「モットー」に地域の自然環境を守る

今回は会長の村松光男さんにお話をうかがいました。

「白川源流と疏水を美しくする会」が発足したのは昭和58年12月のこと。昭和30年から40年代にかけて進んだ高度成長の影響を受けていた身近な自然環境を、地域に暮らす人たちが守ろうという思いから活動がスタートしました。

当初は同好会的なメンバーの集まりだったため、活動に対する考え方にも温度差があり、「年間の活動」というものがほとんどない状態でした。そこで、平成12年に北白川学区全38町から委員を選出し、本部役員含めて総勢58人で年間を通して組織的に活動できる体制を整えました。

現在は北白川学区を流れる琵琶湖疏水の第一疏水分線と白川上流域の一部を活動のフィールドとして、年4回の住民一斉

清掃や週に2回のパトロール活動が続いています。これらの取り組みをまとめた会報「水と緑の北白川」も学区内の各戸に配布されています。「組織として活動する以上、私たちが何をしているかを地域の人へ情報発信していくことも必要です。こうしたきめ細かい情報発信により、清掃に参加する人が増え、環境整備に対する前向きな意見も聞こえてくるようになりました」と、その成果に目を細めます。

清掃活動の他には小学生を対象とした「身近な川の生物調査」も平成15年から始めています。生き物観察をはじめ、水質調査や川の清掃など、川や水の大切さを学ぶ機会として学校からの開催依頼も多いため、「参加するまで生き物ひとつ触れな

かった子どもたちでも、一度川に入って生き物に触れれば、忘れられない思い出になる。それが自然に対する思いにつながるんです。それは大きいですよ」。

平成21年秋には、会の優れた社会奉仕活動が評価され、緑綬褒章も受章されました。「まだまだやりたいことはたくさんあるけど、人間的に無理な部分もたくさんあります。活動の幅を広げることよりも、「現場主義」をモットーに、従来の活動を充実させることに力を注ぎたい」と力強く語ってくれました。

白川源流と疏水を美しくする会 村松光男さん



白川源流と疏水を美しくする会 村松光男さん



BYスタンプラリーとは、水質改善活動に取り組んでいる協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、記念品をもらう新しいタイプのスタンプラリーです。これまで2,635人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、58の市民団体と20の水関連施設で構成されています。（平成22年2月末現在）